

特徴ある蚕品種の飼育特性

1. 試験のねらい

近年育成された繭糸の色や太さに特徴ある蚕品種は従来の普及蚕品種と異なる特性を示すことが多い。そこで、現場に普及された場合の品種特性を明らかにし、今後の飼育方法の確立を検討する。

2. 試験方法

(1) 飼育試験

- 1) 実施蚕期：春（5月12日掃立）、晩秋（8月25日掃立）
- 2) 供試蚕品種：はくぎん、鐘光×黄玉、対照品種（春：春嶺×鐘月、晩秋：錦秋×鐘和）

(2) 上簇時の行動特性試験

- 1) 実施蚕期：晩秋（8月25日掃立）
- 2) 供試蚕品種：はくぎん、鐘光×黄玉、対照品種（錦秋×鐘和）

- (3) 一粒繰糸調査 供試蚕品種：はくぎん、鐘光×黄玉

3. 試験結果および考察

(1) 飼育試験

5 齢期から上簇までの飼育積算温度は、はくぎんが 150℃付近に、また、鐘光×黄玉が180℃に存在した（表－1）。5 齢期の日別蚕体重増加率を対照品種と比較すると、はくぎんおよび鐘光×黄玉は2 日目以降の傾斜が高くなった（図－1）。

(2) 上簇時の行動特性試験

1) 登簇距離

営繭状況から算出した品種別積算登簇距離（図－2）を対照品種と比較すると「はくぎん」の移動距離は長く、鐘光×黄玉はおよそ7割程度の移動距離となった。

2) 平面吐糸量

平面吐糸量は対照品種と比較し、はくぎんが 176%、鐘光×黄玉では52%となった（図－3）。

(3) 一粒繰糸調査

はくぎんは繭糸長が 1,500m内外と長く、粒内繊度曲線は外層で約 2.0dで始まり、緩やかな下降線を示す均一性のある繭糸で、平均繊度が1.47 dと極細繊度繭糸が得られた。また、鐘光×黄玉は繭糸長が 1,300m内外で、平均繊度が2.34 dと 800m付近に存在し、平均繊度を越えてから急速に細くなる傾向にあった（図－4）。

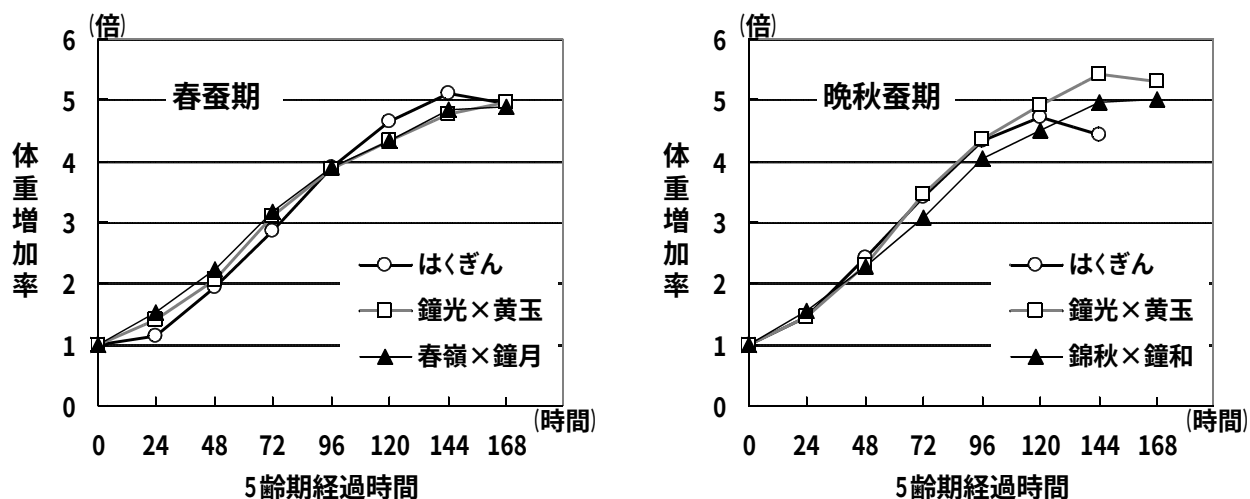
4. 成果の要約

対照品種と比較すると5 齢期経過日数が「はくぎん」は短く、「鐘光×黄玉」は概ね同等であった。また、「はくぎん」は登簇性および平面吐糸性が強く、本品種に合った上簇管理が必要と思われる。「鐘光×黄玉」は登簇距離が短く平面吐糸量の少ない、上簇管理がし易い蚕品種である。今後は、それぞれの繭質特性を活かした特殊用途用蚕品種としてブランド繭の産地化を進める必要がある。

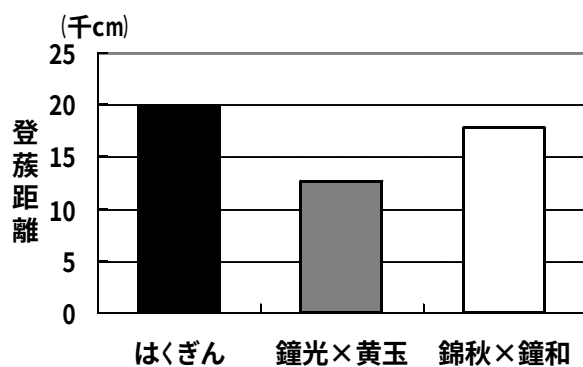
（担当者 南河内分場 戸谷良二）

表－1 飼育成績

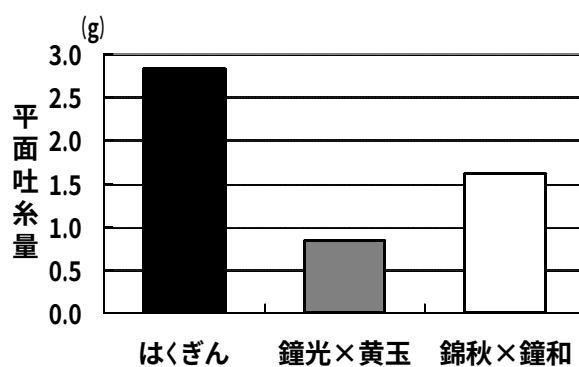
蚕期	品種名	5齡期飼育温度(℃)		飼育経過 (日.時)				簇中減歩(%)	化蛹歩合(%)	1万頭収繭量(kg)
		平均	累計	1～3齡	4齡	5齡	全齡			
春	はくぎん	22.0	153.1	11.23	6.06	6.23	25.04	1.7	97.9	15.9
	鐘光×黄玉	23.2	187.5	13.00	6.23	8.02	28.01	0.2	99.8	18.7
	春嶺×鐘月 (対照)	23.2	185.6	13.00	6.23	8.00	27.23	0.6	99.0	17.2
晩秋	はくぎん	26.3	157.8	11.23	5.00	6.00	22.23	1.3	98.7	15.0
	鐘光×黄玉	25.6	181.3	13.00	4.22	7.02	25.00	3.2	96.6	15.9
	錦秋×鐘和 (対照)	25.9	181.3	12.03	4.20	7.00	23.23	1.6	98.4	17.1



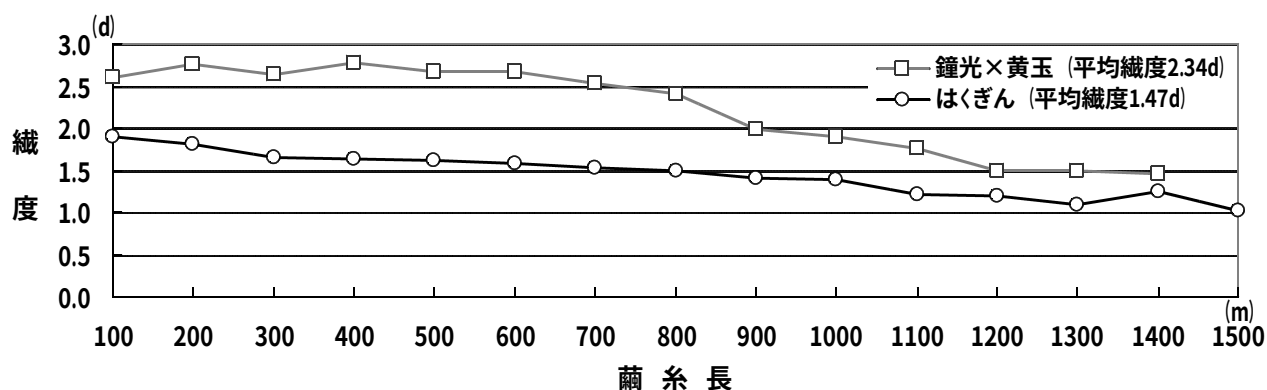
図－1 日別体重増加率



図－2 品種別積算登簇距離



図－3 品種別平面吐糸量



図－4 「はくぎん」および「鐘光×黄玉」の一粒繰糸成績